

第1回

協働の まちづくり プロジェクト会議結果



テーマ

『遊び心を大切にしたまちづくり』

協働のまちづくりプロジェクト会議って何？



協働のまちづくりプロジェクト会議は、町内に居住する20歳以上の委員16名で構成し、まちづくりの課題等からテーマを設け、様々な視点からご意見やご提案等話し合い、行政運営の参考としています。



11月に開催された第1回の会議結果は次のとおりです。

□ 剣淵小学校の栄養士から、管内をいろいろ回ってきましたが、剣淵の給食は本当に美味しいと聞いている。そこで、この美味しい給食を一般の方も食べられる所があったらいいと思う。

□ 剣淵町は絵本で名を売っているまちです。仲町の旧倉田ストアに、商店街のシャッターや壁にも絵を描いたらいいと思います。それと、家の形をお城のようにしてみたりしてメルヘンなまちをイメージさせてはいかがでしょうか。絵本の里だと感じていただけるようなまちになればいいかなと思う。

□ 文化ホールを建てていただき、音楽団を呼んだり、老人大会や芸能発表会をしたりして、のびのびできる活動の場所があれば、豊かな心や遊び心が養う場所になると思う。

□ 話を聞いていると抽象的だと感

じます。城下町に行っている人は、雰囲気味わいに行っている。鳥取県境港市にはゲゲゲの鬼太郎の水木しげるロードがあるが、ここも観光客が多い。絵本に合った雰囲気、町並みが必要で、例えば都会から剣淵町に来た方は「空が広い」という景観を楽しんでいる。雰囲気が良くて、また行こうと思えるようなまちづくりが大事だと思う。

□ 実家が本州で、剣淵町に来て一番感動したのが、星がとても綺麗だと感じました。この綺麗な星空をまちづくりに活かせないのかなと思う。

剣淵町は絵本の里であって、福祉のまちでもあります。昨年からは年に1回、剣淵町民センターで「けんぶち1受けたい授業」を開催しました。これは、西原学園や北の杜舎に入所する方と子供や大人たちが一緒に物づくり体験をしており、昨年は町内の方がほとんどでしたが、今年は口コミで町外からも参加してくれました。

この事業は今後も続けていきたいと思っておりますし、福祉のま

ちづくりとして利用者も関われるまちづくりをしていければと思う。

□ 美味しい野菜と絵本のコラボでPRしていければいいと思う。剣淵に行くところという美味しい野菜があるよと分かってもらえるようにしていく。ネーミングも工夫することも大事。まちづくり団体の横の情報のつながりを大事にしてまちづくりをしていくとよい。

□ 町外から来ている奥さんたちから公園が少ないとよく聞きます。児童公園があっても遊具が少なすぎることです。例えば、絵本の森という公園を作ったとして、三匹のこぶたの家があったりとかメルヘン的な公園があれば町外からも人を呼び込めると思う。

□ 世界に一つだけの絵本。お父さんお母さんからのメッセージが書かれた絵本をつくる。

□ バス停の名前を変える。現在、バス停は〇〇宅前の表示になっ

ているが、これをムーニヤの丘、イソップの森等に作る。また、バス内で絵本の朗読が聴けて、観光地を回るバスがあってもよい。

□国道を通過する観光者の方は「劍淵がどこにあったのか分からなかった」と言っている。市街地への入り口が分からないと思うので、アーケードを作って誘導してはどうでしょうか。

□LED照明を活用したまちづくり。飛行場の滑走路のようにLED照明で夜の街へと誘導する。そして、アンダーパスに入る一瞬、街灯がハート型に見えるということから、若者も来てくれればよい。

□駅前での情報発信。JRで来た方が、どこにどう行ったらいいか分からない。有効活用が必要。

□協働のまちづくりは行政と町民がタッグを組むこと。行政の支援が必要。

なんでもやる課のような町民の意見を聞いて、行政が「やって

みるか」となるようなタッグを組めることが必要。

また、町民全員が観光大使になり、周りから「そんなことやっているの」と注目されるのもいいと思う。

町のイベントも経済課だけが出てくるのではなく、いろんな課が出てきてくれればいいと思う。

□絵本の原画美術館。大きい建物でなくていい。

バス車庫横の原画收藏館が活かされてくる。原画を見られる拠点づくり。

□星空の観察を絵本の館で実施した。館の屋上は四方を塀で囲っており、星空を見られるように作られているので、活用していくことが必要。

□ケンパ歩道を作る。ケンケンパ、ケンケンパが描いてあると、いたずら心とか遊び心で気持ちが楽しくなる。

□劍淵町のまちの中は、観光するところが絵本の館しかない。

問い合わせで、「ムーニヤの丘

はどこですか」「北劍淵駅はどこですか」等聞かれる。北劍淵駅は駅マニアによる秘境駅として知られており、何人か訪れるスポットでもある。しかし、場所が両方とも教えにくい。

□資料館には素晴らしい物がたくさん揃っているが、場所が分かりづらい。また、その道具を使って見せてあげることでもっと人を呼び込める。

□団塊世代の仲間が増えてきた。冬にする趣味活動として、将棋や碁をやるのかなと思っても、どういう活動グループがあるのか分からない。そういった情報誌を作ってみてはどうか。そして、マイナーな活動等も載せてほしい。

□各イベントにはのぼりはてき面とにかく目立ち、そこで何をしているのかが分かりやすい。のぼりは高い物ではない。

□劍淵町の人口をどう減らさない

ようどう増やしていくか、後継者をどう育てるかの問題もある。

テレビでも婚活の様子が放送され、結構カプルになっている。後継者として新規で農業をやっても続けていけるのかの心配もある。

士別市では、お嬢さんのパターンで就農する例が増えてきており、地域も喜んでいいる。

劍淵町は農業高校があるけど、地元に残る人は少ない。劍淵高校は、農業と福祉の高校で町外からも通っている生徒がいる。劍淵高校の卒業生が劍淵町に残れる手段を考えていくのも大切。

□劍淵町に交通機関で来た方に対して、観光場所までの交通手段をどうしたらいいのか考える必要がある。温泉バスがあるが時間の間隔が長い。観光地案内バスを週に2回、1日に2便ぐらいあればいい。

海外の観光客が増えてきているので、英語版等のパンフも必要。観光地をつなぐ手段も必要。現在、アルパカ牧場では、遊びに来られた客を絵本の館まで送っています。行政でも観光地をつなぐ手段を考えていただけたらと思う。